

クオース

道内企業メインバンク調査 1位は「拓銀破綻の産物」

北洋銀よ!おごるなかれ

JAL更生計画“第2ラウンド”全国46万人株主が「法廷闘争」へ

ジャパンケアグループが建設不可の用途地域に営利目的施設を計画

市長公宅が消えた!開拓の祖・島義勇も嘆く

上田^{札幌}市長・市民必読の「つわものどもが夢のあと」



アトピー性皮膚炎、気管支喘息、
アレルギー性鼻炎など専門医が語る

3大アレルギー疾患の 臨床研究

医療最前線



〈はらぶち やすあき〉
1956年生まれ53歳。旭川医科大学医学部卒。89年7月札幌道病院耳鼻咽喉科医長、91年12月ニューヨーク州立大学バッファロー校医学部小児科学講座 Research Instructor。93年7月札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座講師。98年11月より現職。日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事等、日本鼻科学会理事。

旭川医科大学医学部
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
原 保明 教授



〈ひみ てつお〉
1953年生まれ56歳。札幌医科大学医学部卒。86年米国ペイラー医科大学留学。96年札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座助教授。99年7月より現職。日本鼻科学会理事。

札幌医科大学医学部
耳鼻咽喉科学講座
氷見 徹夫 教授

質獲得、②アレルギーに対する感作成立、③感作成立

総会でも発表された。

同大学では、アレルギー発症までを、①アトピー体質獲得、②アレルギーに対する感作成立、③感作成立

からアレルギー発症まで、④アレルギー発症に伴う症状発現の4段階に分け、それぞれ検討を行っている。

②については、鼻粘膜上皮での「抗原のサンプリング」、樹状細胞とのクロストーク」の解析と評価系への応用。③では、アレルギー発症に関与する「上皮特有のサイトカイン・TSLP」の分析と評価系の確立を行い、新しい視点からアレルギー性鼻炎の治療戦略の確立を目指す。

また、白崎英明准教授を中心とした鼻づまりを引き起こす脂質メデイエーター受容体の研究も継続して行っている。現在、同大学の第3内科と共同で呼吸の一酸化窒素(NO)とアレルギーの関係についても研究を進めており、強力な血管弛緩物質であるNOの産生を介して鼻づまりを引き起こされると推定している。

このほか同大学では、難治性の好酸球性疾患の疫学研究を本年度から開始する。

「ペプチドワクチン療法では、アナフィラキシー反応のような副作用を完全に抑えることができる」と原保明教授は、そのメリットを説明する。

さらに、シラカンバ花粉症の症状の1つとして、リンゴやメロンなどのフルーツ類を食べると口腔アレルギーの症状が表れることから、このアレルギー症状を抑制するワクチンを開発中だという。

また同大学では、インフルエンザ菌であるP6蛋白に着目。この研究でも数多くのHLAに結合するペプチドの候補を見つけ、研究成果を昨年5月に韓国のソウルで開催された「国際中耳炎シンポジウム」で発表。多大な注目を集めた。

そして今年7月7日から3日間、旭川市内のホテルで「第7回国際扁桃上気道粘膜免疫シンポジウム」を原保明教授の主宰で開催。海外の研究者をはじめ、過去最高となる250人が参加。中耳炎と花粉症に関するワクチン療法の例が多数報告され、医学の発展に寄与する意見交換が行われた。

さらに、シラカンバ花粉症の症状の1つとして、リンゴやメロンなどのフルーツ類を食べると口腔アレルギーの症状が表れることから、このアレルギー症状を抑制するワクチンを開発中だという。